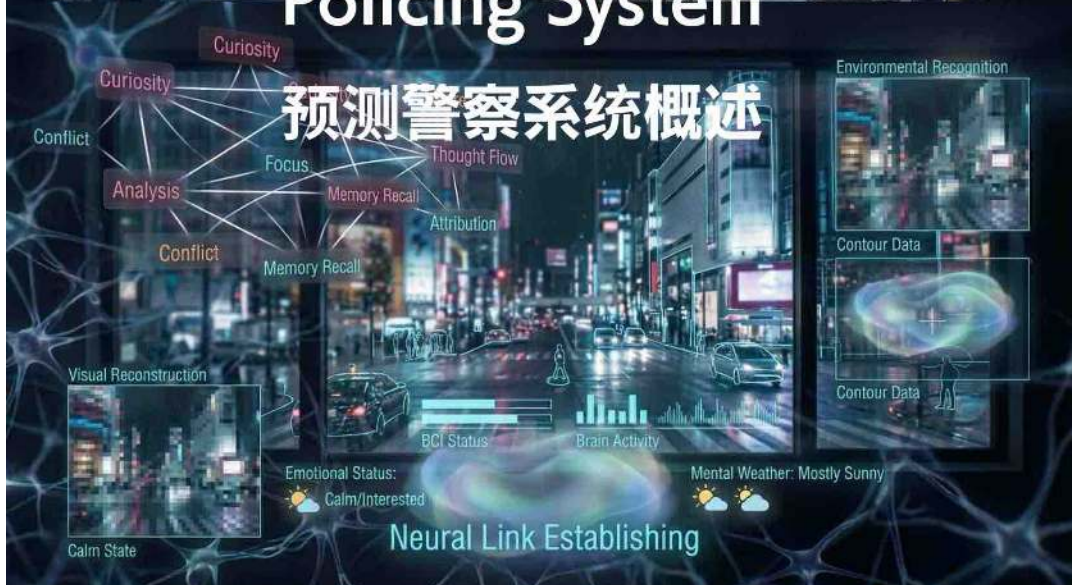




予測警察システムの概要紹介

2000 文字版

目次

予測警察システム①～⑬記事概要まとめ(2000 文字版)	7
予測警察システム①：考えただけで送信が阻止され、AI に調教・支配される時代の到来（未完成版）	7
送信・いいねが消える異変	7
事実や意見を言うのと弾圧される	7
金の力で事実が歪められる	7
予測警察システムの現象	8
数 100 ミリ秒で阻止できる仕組み	8
調教と支配の狙い	8
予測警察システム②：人体ハッキングのメカニズム（未完成版）	9
正しいことを言う人への弾圧	9
エプスタイン事件の被害者	9
人体ハッキングの症状	9
意識と自動の分離	10
磁性ナノ粒子と脳操作	10
ベネズエラ侵攻とゴースト・マーマー	10
予測警察システム③：「磁性ナノ粒子」で脳や身体をコントロールする仕組み（未完成版）	11
諜報機関による人間支配の歴史	11
NANO-MIND とは何か	11
オプトジェネティクスとの違い	11
独裁政権が手に入れた場合の危険	12
磁性ナノ粒子で送受信する仕組み	12
MPI 技術と磁場異常	12
身体症状のメカニズム	13
昆虫・動物のコントロール	13
数 100 ミリ秒で起きる理由と社会工学	13
なぜ平気で虐殺できるのか	14
予測警察システム④：健康被害の仕組みと「簡易対策」——国家テロによる市民迫害（未完成版）	15
腰痛・関節痛・視界不良	15
筋肉痙攣・痒み・心臓発作・脳出血	15
便秘・睡眠障害・大腸癌	15
症状のグループ分け	15

簡易対策	16
国家が国民を傷つけるシステム	16

予測警察システム⑤：国家テロとイジメは同じ構造——加害組織の「見えない偽装」を読み解く（未完成版）

加害組織が見えない理由	17
カルトや宗教への偽装	17
普通の人に加害に加担する理由	17
労組潰しと犯罪者のリクルート	18
鬼滅の鬼と同じピラミッド構造	18
国家テロとイジメの構造	19

予測警察システム⑥：モニタリングされる恐怖——なぜ「まともな人」が自殺や裏切りに追い込まれるのか（未完成版）

自殺に追い込む理由	20
モニタリングしている証拠	20
モニタリングの目的と虫・動物・人	20
「敵が嫌がるから正しい」という論法	21
兵庫県の告発文書問題	21
危険人物としてマークされる人	22
対向車のライトとストーリーシアター	23
エコーチェンバーと思考・感情モニタリング	23
加害組織が見えない仕組み	24

予測警察システム⑦：「脳間通信」が生み出す話の通じない「支配者心理」とナノ粒子対策（未完成版）

脳間通信が支配を生む心理メカニズム	25
米軍の脳間通信技術	26
磁性ナノ粒子への対抗策	26
支配の連鎖を断ち切るために	27

予測警察システム⑧：電場でも人体を操るナノ粒子——完全監視が選挙を成立させなくして極右が支配する未来（未完成版）

ブログ公開後の異変	28
電場で動くナノ粒子	28
電場で腹鳴を起こすメカニズム	28
完全モニタリングと選挙	29
まとめ	30

予測警察システム⑨：一般市民を恐怖に陥れる「ギャングストーキング」は「N3 兵士」の市街地戦？（未完成版） 31

複数の操作チャンネル	31
バイク・護送船団による包囲	31
スーパー・工事音・宅配便・上空旋回	31
N3 兵士の心理変化と治安ビジネス	32

予測警察システム⑩：脳間通信の技術開発の歴史と「加害者と被害者の 2 極化」の仕組み（未完成版） ..33

脳間通信は妄想ではない	33
冷戦時代の超能力研究	33
SILENT TALK と N3 プログラム	33
ナノ粒子双方向 BCI の現在	33
加害組織のピラミッド構造	34
加害者と被害者のナノ粒子の違い	34

予測警察システム⑪：恐るべき見えない加害者との『コミュニケーション』方法——思考監視と身体攻撃が作る支配の構造（未完成版） 35

加害者の正体がわからない理由と同意の偽装	35
音による攻撃の仕組み	35
電車・バスでの監視と身体攻撃	35
身体ハッキングと密室化	36
古典的条件付けと自発的自滅	36
加害組織の構造と表裏	36
支配と従属のメカニズム	37

予測警察システム⑫：なぜ「正しいことをする人」が被害者になるのか？——戦争・テロ・不正選挙を製造する脳間通信ネットワーク（未完成版） 38

被害者が理由を知らないまま狙われる	38
訴えても無かったことにされる理由	38
脳内通信エコーチェンバーの危険	39
報酬と共犯の鎖	39
戦争を製造する兵器	39
正しい人が被害者になる理由と選挙操作	40

予測警察システム⑬：ナノ粒子を利用した「見えない暴力」と、人類を二極化する「トランスヒューマニズム」（未完成版） 41

酸化グラフェンと磁性ナノ粒子	41
----------------------	----

不可視の暴力	41
優生思想と自作自演の「世界の警察ごっこ」	42
優生学のリブランディング——トランスヒューマニズムの誕生	42
トランスヒューマニズムの制度化——冷凍保存からシンギュラリティまで	42
ニューラリンクと意識・記憶の操作という脅威	43
電脳化サイボーグ兵士——優生学の論理の延長	43
「無用者階級」——二極化する未来	43
脳間通信エコーチェンバーが反論を不可能にする	43
権力の逆説と道徳的免責	44
脳間通信兵器と戦争が止まらない理由	44

予測警察システム①～⑬記事概要まとめ(2000 文字版)

予測警察システム①：考えただけで送信が阻止され、AI に調教・支配される時代の到来（未完成版）

送信・いいねが消える異変

X（Twitter）で、いいねやリツイートが消える、投稿しようとするエラーが出る、不都合な投稿でアカウントがロックされる、といった被害報告が多数あります。愛子さまの投稿でも、いいねのハートが赤から白に戻り、いいねが消える現象が起きます。元刑事が見ても説明できない奇妙な現象であり、誰かが意図的に操作している可能性があります。

事実や意見を言うと弾圧される

戦争反対をうさぎの絵で訴えた人がネトウヨから集団リンチを受け、黙らされる例があります。2026 年 5 月には中東情勢の緊迫化でナフサ不足が起き、カルビーがポテトチップスなど 14 商品の包装を銀色に変更すると発表しました。高市首相は供給継続の見込みを説明しましたが、現場では不足が続いていました。ナフサ不足を指摘することは政権の能力不足を明らかにするため、事実を言う人が集団リンチで黙らされる構造があります。

金の力で事実が歪められる

西側諸国では金さえあれば嘘をついてくれる人を雇えます。AV 産業では大金を積めば本音と異なることを言う女性を雇え、事実を言う女性は集団リンチされます。歴史修正や歴史改竄も、売れなくなった芸人や一攫千金を狙う若い男たちが「従軍慰安婦はいなかった」「南京虐殺はなかった」「改憲賛成」「中国人はマナーが悪い」「韓国人は反日だ」と言う金もらえるため続けられてきました。事実を言うのと得をせず、集団で叩かれる仕組みが日本にあります。

予測警察システムの現象

AV の仕組みや日本政府、ファシズム、日本会議などのカルトにとって不都合なことを書くと考え、考えて 1 秒以内に通信遮断が起きます。Wi-Fi や VPN が切れる、送信ボタンが押せない、自動保存が止まる、メモ帳アプリが落ちる、マウスや画面が固まる、電源コードを抜くと動き出す、といった現象です。X では高市批判を送信しようとする、送信ボタンが押せない、通知が届かない、DM の通知が出ない、いいねやリツイートが消える、翻訳機能が働かない、といった妨害があります。人体への拷問も起き、考えて 1 秒以内に腹がグルグル鳴る、異臭がする、屁が出る、腹痛になる、といった現象があります。

数 100 ミリ秒で阻止できる仕組み

人間が因果関係を認識するには、原因と結果が 1 秒以内、長くても 2〜3 秒以内である必要があります。相手に因果関係を感じさせるには、認知を観察しながら数 100 ミリ秒以内にイベントを起こす必要があります。脳波センサー、エッジ処理、AI による意図検知、通信の物理的ブロック、学習性無気力を組み合わせれば、考えただけで送信を阻止できます。スマホ、イヤホン、スマートウォッチ、ルーター、基地局、衛星などが監視装置になり得ます。Palantir は ICE に顔認識、SNS 監視、位置情報追跡のツールを提供し、巨大監視システムを構築しています。

調教と支配の狙い

何度も妨害されると人間は「もういいや」と諦めます。これは学習性無気力であり、CIA の尋問マニュアルでも使われてきた手法です。予測警察システムは、告発しようとするだけで阻止し、最終的に諦めさせる仕組みです。相手の思考や弱みを全て手に入れて自由にコントロールできるため、富裕層やテック企業、金融エリートは、自分たちに逆らうことを考えるだけで拷問や不利益が起きる世界を作ろうとしています。それにより、誰もイスラエルやトランプ、ネタニヤフ、高市などファシストに逆らえない世界を作るのが狙いです。

予測警察システム②：人体ハッキングのメカニズム (未完成版)

正しいことを言う人への弾圧

国連のパレスチナ人権状況特別報告者フランチェスカ・アルバネーゼは、イスラエルによるガザでのジェノサイドを非難したため、組織的な中傷キャンペーンと違法な制裁に晒されました。フランス政府は辞任を要求しましたが、彼女は拒否しました。国際刑事裁判所に対しても、トランプ政権はネタニヤフ首相への逮捕状への報復として、裁判官や検察官に大規模な制裁を科しました。正しいことを言うと損をする構造が国際レベルで作られています。トランプや高市、ネタニヤフが強気でいられるのは、相手が脅しの手口を理解していないからです。不都合な事実や情報を統制したい意図があります。

エプスタイン事件の被害者

エプスタイン事件の被害者マリナ・ラセルダは、14歳のときに性暴力を受けたと公表した直後から脅迫を受けました。司法省の文書に名前が46回も伏せられずに掲載された後、嫌がらせは激化しました。彼女はオンラインで「嘘つき」「売春婦」と呼ばれ、12歳の娘は学校でいじめられました。現在、彼女は銃を枕元に置いて眠っています。ロイター通信が特定した23人の告発者のうち、ほぼ全員が脅迫、嫌がらせ、威嚇を経験しています。被害者を「キチガイ」「頭のおかしい人」とレッテル貼りし、デマや悪評を流し、住所や居場所を晒し、周りを攻撃し、孤立させ、最終的に脅しに屈させます。

人体ハッキングの症状

元CIA工作員のジョン・キアリク氏は、CIAが自動車を遠隔操作して事故に見せかけた暗殺を行う能力を開発していたことを明かしました。しかし、今はさらに恐ろしい人体ハッキングの時代です。監視・ストーキング関連では、虫が襲ってくる、カラスがタイミングよく鳴く、外出するとつきまとう人が現れる、といった現象があります。殺意を感じる攻撃では、車の運転中に眠くなる、目やにで見えなくなる、視界が急にボヤける、対向車のライトが眩しくなる、といった現象があります。呼吸・心臓関連では、喉が苦しくなって呼吸停止のようになる、咳が出る、吐き気が酷くなる、心拍数が異常に上昇する、といった現象があります。嗅覚・筋肉・消化器関連では、異臭がする、筋肉がピクピク痙攣する、腹鳴が頻繁に起きる、屁が頻繁に出る、急に腹痛になる、といった現象があります。

意識と自動の分離

人間の身体は、自動システム（不随意）主、意識的な意思でコントロールできる（随意）主、混合型（自動＋意識）に分かれます。腕や筋肉は意識で動かしますが、消化は自動で行われます。訴訟文書を書いているときに、自動で動く胃や腸を外部からコントロールして下痢や腹痛を起こさせると、本人の意思で行っている作業を妨害できます。自動で動く部分を外部から操作し、処理を割り込ませることで、本人がやろうとすると常に邪魔や妨害されるシステムができます。

磁性ナノ粒子と脳操作

研究レベルでは、磁性ナノ粒子や磁気電気ナノ粒子を使ったアプローチが進んでいます。MENPs は外部磁場を局所的な電場に変換し、ワイヤレスで脳深部の神経活動を制御・記録できる可能性を持っています。適切に設計された MENPs は、サブミリメートルの空間分解能とミリ秒の時間精度で深部脳および皮質の神経調節と記録を可能にすると予測されています。磁場を使ってコントロールしている可能性が高く、遮断や防御が難しい状況です。

ベネズエラ侵攻とゴースト・マーマー

2026 年 1 月 3 日、米軍はベネズエラの首都カラカスに対して「絶対的決意」と名付けられた大規模な軍事奇襲を敢行しました。150 機以上の航空機が動員され、マドゥロ大統領夫妻は米軍艦上に連行されました。この作戦で少なくとも 40 人が死亡し、そのうち 32 名がキューバの軍事要員でした。トランプ大統領は、ベネズエラの防御を無力化するために「エネルギーの秘密兵器」を使用したと述べ、さらに「ゴースト・マーマー」と呼ばれるシステムに言及しました。ゴースト・マーマーは量子磁力測定技術に基づく遠隔探知システムであり、人間の心臓の鼓動が生み出す電磁パルスを探知し、数千平方キロメートルの範囲内で AI が信号を分離します。探知距離は約 65 キロメートルに達し、1000 平方キロメートルをカバーできるとされています。米軍は予測警察システムを利用し、キューバ兵士が狙われていることに気づく前に位置特定と攻撃を完了した可能性があります。予測警察システムは個人から国家、軍事、地政学レベルにまで拡大適用され得ることを示しています。

予測警察システム③：「磁性ナノ粒子」で脳や身体をコントロールする仕組み（未完成版）

諜報機関による人間支配の歴史

CIA の MK ウルトラ計画では、LSD や催眠術を用いたマインドコントロール研究が行われ、731 部隊では人体実験が繰り返されました。1977 年、情報公開法による請求で約 2 万ページの財務記録が見つかり、上院の委員会が合同公聴会を開きました。CIA 長官ターナーは、MK ウルトラが 80 の機関と 185 名の研究者を動員し、149 のサブプロジェクトを支援していたと証言しました。大学や病院、刑務所などで、本人の同意なしに LSD などが使われたケースもありました。2026 年には下院のタスクフォースが再び公聴会を開きました。キンザー教授は MK ウルトラを「医学的拷問に該当します」と批判しました。最大の問題は、1973 年に CIA 長官ヘルムズが関連文書の破棄を命じたことです。記録の破棄と墨消しのため、全貌は今も完全には解明されていません。

NANO-Mind とは何か

NANO-Mind は、韓国の基礎科学研究院と延世大学の研究チームによって開発されました。2024 年 7 月 2 日付で『Nature Nanotechnology』に発表されたこの研究は、世界で初めて磁場を用いて脳の特定領域を自由にコントロールすることに成功しました。磁化されたナノ粒子と磁場を組み合わせることで、マウスの特定の脳領域を遠隔操作できます。頭蓋骨に穴を開けたり、侵襲的な手術を行う必要はなく、完全にワイヤレスで手術も不要です。研究チームは、脳の内側視索前野にある抑制性ニューロンを活性化させることで、マウスの食欲を 100% 増加させることに成功しました。逆に、これらのニューロンを興奮させると、摂食量は 50% 以上減少しました。生殖経験のないメスのマウスが、内側視索前野を刺激されると、仔マウスを巣に運んで育てる母性行動を示しました。Nano-MIND は動物の行動を自由に遠隔操作できる技術です。

オプトジェネティクスとの違い

従来の光遺伝学では、頭蓋骨に穴を開けて光ファイバーを挿入し、光を照射する必要がありました。これは侵襲的で、自由に動き回る動物には適用が困難でした。Nano-MIND では、遺伝子操作によって標的となる脳細胞にイオンチャネルを組み込み、外部から磁場をかけるだけで、そのチャネルを開閉できます。小型アクチュエータで磁場を発生させ、イオンチャネルのスイッチを入れる仕組みによって、外科手術なしの完全ワイヤレス遠隔操作によるマインドコントロールが可能になりました。磁場は生体組織を透過するため、頭蓋骨を通過し

て脳深部にまで到達します。磁化ナノ粒子は非常に小さく、血流に乗って体内を循環させることができ、特定の脳領域に標的化することも可能です。

独裁政権が手に入れた場合の危険

専制的な政府が、ナノ粒子を用いて一般大衆の心を遠隔操作する効果的な方法を見つけた場合、大衆は何が起こっているのかさえ気づかないまま、マインドコントロールプログラムが実行されるかもしれません。Nano-MIND システムの中核をなす磁化ナノ粒子は、食品からワクチンに至るまで、多くの日用品にすでに含まれている可能性があります。多くの場合、一般の人々の意識に触れることはありません。つまり、誰にも知られず、遠隔操作によるコントロールの基盤作りが可能になってしまいます。AI と同じように、ナノテクノロジーは人類にとって存亡の危機となる可能性があります。池上彰の番組でも「ターミネーター兵士計画」として、記憶・感情・判断を人工的に操作し、戦闘意欲を与え、恐怖心を失くす技術が紹介されました。米軍は 2050 年までにサイボーグ兵士を実現することを目標に掲げています。

磁性ナノ粒子で送受信する仕組み

Nano-MIND は外部から脳を操作する技術ですが、逆に脳信号を外部に送信する技術も開発されつつあります。鍵となるのが磁気電気ナノ粒子です。MENPs は外部磁場を局所的な電場に変換する性質を持っています。この性質を利用すると、磁場をかけることでナノ粒子から電場を発生させ、ニューロンを刺激できます。逆に、ニューロンの電気活動を磁場の変化として検出することも可能です。つまり、MENPs は双方向のブレイン・コンピュータ・インターフェースを実現するプラットフォームになり得ます。適切に設計された MENPs は、サブミリメートルの空間分解能とミリ秒の時間精度で深部脳および皮質の神経調節と記録を可能にすると予測されています。2026 年 5 月には、MENPs が生きた成人ヒトの脳皮質スライスで神経活動を誘発することが確認されました。

MPI 技術と磁場異常

磁気粒子イメージングは、超常磁性酸化鉄ナノ粒子の非線形磁化を検出して画像化します。X 線被曝がなく、高い時間分解能と空間分解能を持つことが特徴です。2025 年 1 月には、ヒトの脳をイメージングするための MPI システムが開発されました。このシステムは、機械的に回転する永久磁石ベースのフィールドフリーラインを使用し、26kHz の駆動コイルで最大 7mTpeak の磁場を発生させます。受信コイルは人間の頭部にフィットするように設計されており、5 秒/画像の時間分解能で連続的に画像を取得できます。MPI は、脳血流の変

予測警察システム⑬：ナノ粒子を利用した「見えない暴力」と、人類を二極化する「トランスヒューマニズム」（未完成版）

酸化グラフェンと磁性ナノ粒子

酸化グラフェンは炭素原子が蜂の巣状に並んだシートに酸素を含む化学基をくっつけたもので、薬物や抗体を結合させて運ぶ化学プラットフォームです。磁性ナノ粒子は鉄酸化物でできた三次元粒子で、外部磁場で操作できる物理ツールです。両者を組み合わせた磁性酸化グラフェンは化学的な結合能力と磁気操作能力を兼ね備えています。磁性ナノ粒子や MGO は体内に入ると肝臓と脾臓に最も多く蓄積され、酸化グラフェンは肺に長期間残留しやすい特徴があります。MGO は注射後 90 日経過しても肺、肝臓、脾臓に残存していたというデータもあり、肝臓、脾臓、腎臓などで組織障害が観察されたという報告もあります。ナノ粒子は体内の特定の臓器に蓄積し長期間とどまり続ける可能性があるのです。

不可視の暴力

ギャングストーリーキングの被害を訴えると統合失調症の幻覚だと言われて強制入院させられたりしますが、これは根本的に矛盾しています。イジメ、村八分、女性差別のいずれも加害者を特定できなければ存在しないのでしょうか。見えないけど確かに存在する暴力は世の中に沢山あります。特にナノ粒子のような目に見えず簡単に検出できない一種の生物兵器を使っている場合はなおさらです。逆に敵対する勢力が存在しないと信じてくれている方が騙し放題なので好都合です。不可視の暴力とは目に見えず証拠も残りにくいけれど実際に人を傷つけ健康・精神・社会的立場・人生を破壊するものの総称です。平和学の父ヨハン・ガルトウングは暴力を直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力に分けました。目に見える暴力が終わってもその背後にある構造と文化が暴力を生み続けるというわけです。心理操作ではガスライティングやモラルハラスメントが証拠を残さず相手を追い詰めます。デジタル空間ではアルゴリズム差別と監視資本主義が進行し、AI が決めたと言うことで責任が見えなくなり差別が自動化されます。思考や感情をリアルタイムでモニタリングできれば相手が最も恐れていること、最も悲しむことを正確に把握しピンポイントで攻撃できます。希望を持ち始めたら打ち砕き、助けを求めようとしたら妨害し、死のうと考え始めたら背中を押す——これが自殺に追い込むシステムの核心です。モニタリングされている側は自分が監視されていることに気づかないため、この暴力は不可視なのです。

優生思想と自作自演の「世界の警察ごっこ」

優生思想とは自分たちは他の人間より優れている、劣った存在を排除・支配することは正しいという思想で、戦争やテロを正当化するために使われてきました。中東を戦争だらけにした ISIS はモサドや CIA が国同士を争わせるために仕込んだ火種だったと言われ、困った中東諸国がイスラエル軍やアメリカ軍から高価な武器を買って軍事同盟を結ぶ自作自演の世界の警察ごっこでした。片側に話を聞かない集団を配置すれば対立は永久に続きます。選民思想のナラティブを共有する集団はカルトや過激派というのが本質で、キリスト教、イスラム教、神道と国や地域が違ってても本質は同じです。優生思想の源流はギルガメシュ叙事詩の不死の探求にまで遡ります。旧約聖書の選ばれた民は本来血統的な優劣ではなく神との契約に伴う特別な義務を指す宗教的概念でした。1859 年の種の起源は生物学に革命をもたらすと同時に危険な悪用も招き、ダーウィンの従兄弟ゴルトンが 1883 年に優生学という言葉を作り出しました。当初は善意的な目標を掲げ多くの有力者や知識人に支持され、現在のトランスヒューマニズムとほぼ同じ理屈で語られていました。アメリカでは 1907 年に世界初の強断種法が成立し 1930 年代までに約 30 州が同様の法律を制定、ロックフェラー財団が多額の資金を提供しました。ナチスはこのアメリカ発の優生学を参考にし、約 25 万人の障害者が殺害された T4 安楽死計画の理論的根拠になりました。大日本帝国も皇国史観と結びつき大東亜共栄圏の理念の下で大量虐殺を行いました。敵や支配対象を劣等な存在と定義して非人間化することで軍人たちの罪悪感を麻痺させ虐殺を正当化しました。虐殺はヘイトスピーチから始まり、これを組織化、制度化したものがギャングストーキングだと考えると辻褄が合います。

優生学のリブランディング——トランスヒューマニズムの誕生

戦後、優生学という言葉はタブーとなりましたが思想そのものは消えずリブランディングされただけです。ジュリアン・ハクスリーは初代ユネスコ事務局長を務め、1957 年にトランスヒューマニズムという言葉を作り出し新しい優生学とは人間と機械を融合させることだと論じました。人間を改良するという本質的な目標は変わらず言葉だけが変わったのです。

トランスヒューマニズムの制度化——冷凍保存からシンギュラリティまで

1980 年代にはアルコール延命財団が設立され死後に遺体を液体窒素で冷凍保存して未来の蘇生を目指す活動が始まりました。1990 年代にはマックス・モアがエクストロピアニズムを提唱しテクノロジーによる人間の限界克服を哲学として体系化しました。2000 年代にはレイ・カーツワイルが 2045 年に人間と AI が融合すると预言しました。

ニューラリンクと意識・記憶の操作という脅威

現代の象徴がイーロン・マスクのニューラリンクで、2024 年 1 月に初の人体実験に成功しましたが動物実験では多数のサルが死亡していました。X を買収した人物が脳チップ企業を経営し同時にアメリカ軍の主要請負業者でもある構造は極めて危険な権力集中です。意識と記憶を外部から操作できるようになればもはや隠す必要さえなくなります。ジャーナリストのホイットニー・ウェッブがレイ・カーツワイルに問いかけた「なぜ私をオフにしないのですか」に対する「私たちを信頼して」という答えが問題の本質を浮き彫りにしています。

電脳化サイボーグ兵士——優生学の論理の延長

電脳化サイボーグ兵士は優生学が目指した望ましくない特性を取り除くという論理と同じで、一人の人間の脳に直接介入しリアルタイムで実現できるため、より効率的な手段なのです。

「無用者階級」——二極化する未来

H・G・ウェルズは二つの人類が生まれると预言しました。すべての人がアップグレードされればユートピアになるという売り文句がありますが、推進している人たちは全員のアップグレードを望んでいません。彼らが本当に目指しているのは絶対に逆らうことができない封建制度の復活であり、認知的に反抗することすら永遠にできなくなる奴隷階級をどう作るかというのが核心的な最終結論なのです。歴史家ユヴァル・ノア・ハラリは AI とバイオテクノロジーの進歩によって人類社会が少数のエリート階層と大多数の無用者階級に分断されると警告しています。無用者階級は単なる失業者ではなく雇用不能な存在であり、経済的価値だけでなく政治的権力も失います。実際にトランプ政権が無用で国益に反するイラン戦争を続けてアメリカ経済を破壊しているのは、財産や土地を奪われ経済的にも不要とされる無用者階級を生み出すプロセスだとも考えられます。

脳間通信エコチェーンバーが反論を不可能にする

脳間通信ネットワーク内では価値観が言語を介さず感情やイメージとして直接共有されるため反論の余地がなく、外部の事実や証拠は無効化されます。大日本帝国が正しかったという価値観が絶対の前提となると証拠を突き付けても絶対に罪を認めない人たちになります。これはナチスがユダヤ人は劣等人種だという虚偽を国家規模で共有しホロコーストを正当化したプロセスと構造的に同じです。

権力の逆説と道徳的免責

脳間通信ネットワーク内で人が話の通じない支配者になっていくのは情報の非対称性が神の目感覚を生み共感を破壊するからです。心理学者ダッチャー・ケルトナーは権力を持つと共感が低下すると指摘し、アルバート・バンデュエラの道徳的免責では相手を敵やデータと見なすことで罪悪感を感じなくなります。閉鎖された集団、秘密保持、厳格な階層、服従の文化は共感よりも忠誠と支配を重視する価値観を育てます。

脳間通信兵器と戦争が止まらない理由

脳間通信は戦争を製造し武器を売り支配を拡大するための兵器であり、正しいことをする人こそが最大の脅威となるため組織的にブラックリストに載せられ被害者なのに加害者のように扱われます。国民の7割以上が反対しているのに戦争が止まらないのは予測警察システムが反対や抵抗の動きを未然に防いでいるからです。裏切り者はイデオロギーに染まったカルトや戦争狂が動員されて激しい攻撃を受けます。相手の苦痛が加害者の正義感の燃料になる——これが戦争がエスカレートし続ける心理的メカニズムです。なぜを問い続けること。それがこの構造に加担しないための第一歩です。

化を検出して脳活動をマッピングすることも可能です。脳内に導入した磁性ナノ粒子の動きを常に監視し、その位置や活動をリアルタイムで追跡できる技術が、すでに実用化の段階にきています。ギャングストーキングの被害者が磁場や磁束密度の異常を訴えることは、Nano-MIND や MENPs の技術と一致します。TMS で磁場を頭部に当てることで指を痙攣させることができるように、人体を磁場でコントロールすることは科学的に可能です。

身体症状のメカニズム

腹鳴は、胃や腸が内容物を移動させる蠕動運動の際に、ガスや液体が混ざり合って発生する音です。磁性ナノ粒子を迷走神経や腸神経系に標的化し、外部磁場で刺激することで、蠕動運動を人工的に亢進させることができます。下痢は、腸の動きが速くなりすぎて水分を吸収する時間がなくなることによって起こります。磁性ナノ粒子を腸壁や迷走神経に届くようにして外部磁場で刺激すると、副交感神経が活性化し、腸の動きを速めることができます。異臭は、磁性ナノ粒子を嗅神経や嗅球に標的化し、外部磁場で刺激することで、匂いのない状態でも感じさせることが可能です。心拍数は、磁性ナノ粒子を心臓の神経節叢や迷走神経に標的化し、外部磁場で刺激することで人工的に上昇させることができます。喉の違和感や呼吸困難は、迷走神経や呼吸中枢の操作によって引き起こされます。

昆虫・動物のコントロール

2022 年 7 月、アメリカのライス大学の研究チームが、遺伝子操作したショウジョウバエの脳に酸化鉄の磁性ナノ粒子を注入し、外部磁場で刺激する実験に成功しました。ボタンを押してからわずか 0.5 秒以内に、ハエは翅を広げる行動をとりました。磁性ナノ粒子が磁場で発熱し、その熱でイオンチャネルが開き、ニューロンが発火します。蜂や蛾も同じ昆虫であり、攻撃行動や忌避行動を制御する神経回路に磁性ナノ粒子を標的化し、外部磁場で刺激すれば、特定の人間に向かって飛来させたり、攻撃行動を誘発したりすることは原理的に可能です。哺乳類の行動制御はマウスですでに実証済みです。Nano-MIND の研究では、マウスの脳に磁性ナノ粒子を導入し、外部磁場で刺激することで、食欲・社会的相互作用・母性行動などの複雑な行動を正確に操作できることが示されました。犬や猫も同じ哺乳類であり、脳の基本構造は共通しているため、鳴き声を上げさせたり、特定の行動を引き起こしたりすることは技術的に可能です。

数 100 ミリ秒で起きる理由と社会工学

外部の異変が数 100 ミリ秒以内に起きるのは、AI が予め両方に数秒前に指令を出しておくからです。磁性ナノ粒子や MENPs を脳内に送り込み、外部から磁場をかけると、粒子が動

いたり、発熱したり、磁場を局所的な電場に変換したりします。その刺激が神経細胞を発火させ、特定の感覚や衝動を呼び起こします。脳は刺激の出所を区別しないため、本人はそれを「自分で思いついた」と感じます。AI はアナタに「数秒後に●●の思いつきを送る」と予定し、その数秒前に救急隊員へ「数秒後にサイレンを鳴らせ」と指令を送ります。アナタが実際にその考えを持った瞬間、サイレンが鳴り、数百ミリ秒以内に音が届きます。思考はトリガーではなく、同期の合図として使われています。周りの人間が奇妙な行動をとるのは、スマホアプリの「ゲーム」と「報酬」で間接的に動かしているからです。ポケモン GO は位置情報を使って人を特定の場所へ移動させます。同じ仕組みを予測警察システムに応用すると、AI があなたの位置情報や行動パターンを監視し、周囲の人にミッションを送ります。ミッションをこなすとポイントがもらえ、ボーナスや特典が手に入ります。周囲の人はゲームのクエストをこなすように動きます。ポケモン GO の開発元 Niantic の創業者ジョン・ハンケ氏は CIA の投資機関から資金提供を受けて起業し、その技術は Google に買収されました。2026 年、オランダの新聞『Trouw』の調査により、Niantic が約 300 億枚のプレイヤーのスキャンデータをアメリカの防衛請負業者 Vantor に提供していたことが報じられました。このデータは、GPS が使えない環境でドローンなどを cm 級でナビゲートするための AI モデルの訓練に使われたとされています。

なぜ平気で虐殺できるのか

トランプやネタニヤフ、高市のようなファシストたちが、平気で虐殺を行い、不正を繰り返し、それでも強気でいられるのは、それを支える技術があるからです。予測警察システムと思考監視と人体ハッキング技術——磁性ナノ粒子による脳の遠隔操作、脳波の読み取り、MPI による常時監視、AI による予測とソーシャルエンジニアリングの自動化——これらの技術が組み合わさることで、支配者は反対意見を未然に防ぎ、抵抗する個人を調教し、最終的には誰も逆らえない世界を作り出そうとしています。自分たちに逆らうことを考えるだけで、拷問されたり不利益を被るようになれば、調教されて、そのうち誰もファシストたちに逆らえなくなります。それが予測警察システムと思考監視、人体ハッキングの真の狙いです。

予測警察システム④：健康被害の仕組みと「簡易対策」――国家テロによる市民迫害（未完成版）

腰痛・関節痛・視界不良

腰痛は、腰の筋肉や骨からの痛みの信号が脊髄を通過して脳に届くことで発生します。痛みの信号は脊髄途中で増幅されることがあり、磁性ナノ粒子でこの増幅を操作できます。関節痛は、TRPV1 という痛みのセンサーが繰り返し刺激されると炎症が進み、軟骨が壊れます。磁性ナノ粒子に TRPV1 の抗体を結合させ磁場で刺激する技術を逆用すれば、関節痛を人工的に引き起こせます。視界不良は、磁性ナノ粒子を目の中に注入して網膜への圧力を操作したり、脳の視覚野に異常な信号を送り込むことで、実際には何も見えていないのにボヤけやチカチカを感じさせられます。

筋肉痙攣・痒み・心臓発作・脳出血

筋肉痙攣は、磁性ナノ粒子が細胞膜を変形させカルシウムチャネルを刺激することで、運動神経から筋肉への信号を乱して起こせます。皮膚の痒みは、磁性ナノ粒子でマスト細胞を刺激しヒスタミンを放出させることで引き起こせます。心臓発作は、磁性ナノ粒子がカルシウムチャネルに影響し心臓の電気の流れを乱すことで起こります。脳出血は、磁性ナノ粒子に磁場で熱を発生させ血液脳関門を一時的に緩め、血管を弱らせることでリスクを高められます。

便秘・睡眠障害・大腸癌

便秘は、磁性ナノ粒子を腸壁に集め磁場で腸の動きを抑えれば引き起こせます。睡眠障害は、磁性ナノ粒子がオレキシン神経など睡眠の中枢に蓄積し、磁場で刺激されることでリズムが崩れて起こります。大腸癌は、磁性ナノ粒子が正常な大腸細胞に蓄積し磁場で繰り返し刺激されると、活性酸素種が慢性的に発生し DNA の傷が蓄積して癌化リスクが高まる可能性があります。

症状のグループ分け

10 個の症状は 3 グループに分けられます。混合型は腰痛・関節痛・視界不良で、痛みと感覚の境界を突きます。随意主は筋肉痙攣で、自分の意志で動かしているはずの部分を奪います。自動主は皮膚の痒み・心臓発作・脳出血・便秘・睡眠障害・大腸癌で、本人が制御できない臓器や神経系を直接操作します。磁性ナノ粒子と磁場の組み合わせは、自分の意志で動

かしている部分と勝手に動く部分の境界を巧みに突き、本人が気づきにくく防御も難しい点に真の恐ろしさがあります。

簡易対策

放射線は鉛で防げます。マイクロ波は水に吸収されるため、水を含んだタオルやジェルパッドを首に巻くと影響を減らせます。運転中の眠気攻撃には、停車、水タオル、ジェルパッド、首を 45 度傾ける、充電池を袋に入れて首の後ろにつける、といった対策があります。これらは対処療法であり、根本的な解決には磁場を遮断できるようになることが望ましいです。

国家が国民を傷つけるシステム

死の部隊とは、冷戦時代の中南米で反体制派や市民を暗殺した白色テログループです。軍や警察の制服を脱ぎ、民間人の服で活動し、国家機関が関与しながら非公式を装うのが特徴です。汚い戦争は 1974 年から 1983 年のアルゼンチン軍事政権による国家テロで、22,000 人から 30,000 人が殺害または失踪しました。キャラバン・オブ・デスは、ピノチェト将軍が命じたチリの作戦で、ヘリで各地を回り政治犯 97 人を射殺しました。これらの虐殺が長年見過ごされたのは、失踪という仕組みで証拠を消したからです。しかし真実は消えず、現在多くの関係者が人道に対する罪で裁かれています。ギャングストーキングも、圧倒的なハイテクを使った国家が国民を傷つけるシステムの一つだと考えられます。

予測警察システム⑤：国家テロとイジメは同じ構造——加害組織の「見えない偽装」を読み解く（未完成版）

加害組織が見えない理由

悪事を働く組織が捕まらないのは、足がつかないように民間に外注しているからです。政権交代で悪事がバレるリスクを避けるため、危険な仕事は表の政府から切り離されます。TIA は 2002 年、DARPA が国民の電話・メール・医療記録などを一元的に収集する監視システムを構築しようとしたが、議会がプライバシー侵害を理由に 2003 年に資金を削除し閉鎖されました。その直後の 2003 年、Palantir が設立され、CIA の投資部門 In-Q-Tel が唯一の出資者となりました。議会で止められた TIA の機能が、民間企業の製品としてよみがえったのです。現在 Palantir は ICE と 3,000 万ドルの契約を結び、ImmigrationOS を提供しています。日本でも、警察の監視機能が OB の天下り先の警備会社に移植されています。辺野古で米軍基地反対派のリストを作成していた警備会社には、元警視総監が顧問として迎え入れられていました。警察が直接監視すれば政治弾圧として批判されますが、警備会社が警備業務として同じことをすれば民間の業務に見えてしまいます。問題が起きても末端の外注先を処分すれば上層部にはたどり着かない、多層的な防火壁が作られています。

カルトや宗教への偽装

加害組織は、右翼や日本会議や統一協会などのカルトに偽装しています。おかしい活動をしていても、熱心なカルト信者だからという理由で追及されずに見過ごされます。統一協会の被害は 50 年以上前から日本に存在しましたが、安倍晋三暗殺事件で犯人が宗教 2 世だったことで初めて広く知れ渡りました。2026 年 3 月 12 日の国会答弁で、高市早苗首相は自身の名前が統一教会の内部文書に 32 回登場していることを認めましたが、団体との関連は否定しました。政権の中枢にこうした組織と一体になった政治家が多数いる——組織的な浸透が完了しつつあることを示しています。多くの国民が気付かぬうちに、ファシズムに乗っ取られていったのです。

普通の人に加害に加担する理由

加害組織が自発的な協力者を大量に生み出せるのは、報酬システムがあるからです。イスラエル政府はガザ住民に対し、人質の位置情報を提供した者に 500 万シェケル（約 1 億 4000 万円）の報酬と国外退去を約束しました。監視ネットワーク「シリオン・コレクティブ」は、

反ユダヤ主義者と分類した人物の情報提供に、学生は 500～1500 ドル、医師は最大 7500 ドルを支払うプログラムを公表しています。イスラエル軍では、パレスチナ人の写真をどれだけ多く撮影したかを競わせるゲームが行われ、最も多く撮影した部隊には休暇などの報酬が与えられました。人権侵害をポイント稼ぎに変えることで、兵士たちは罪悪感なく監視と密告に加担してしまいます。金がもらえる、安全が手に入る、出世できる、仲間内で認められる——たったそれだけで、多くの人はまともな人間から加害者になってしまいます。弱みを握ることも協力者を生み出す強力な手段です。パレスチナ人のゲイコミュニティを対象に、イスラエルの諜報機関が性的指向を理由に迫害される人々の弱みを握り、保護と引き換えに協力しろと脅迫して情報提供者に仕立て上げる手口も報告されています。

労組潰しと犯罪者のリクルート

関西生コン事件では、連帯労組を潰すために経営側が右翼活動家を雇いました。右翼活動家の瀬戸氏は、生コン企業の経営者と業務委託契約を結び毎月 70 万円を頂いていたと明かしています。この事件では組合員がストライキが犯罪として逮捕され、逮捕者は 81 人に上りましたが、後に無罪判決が相次ぎました。金をもらって嫌がらせを請け負う——これが現実に行われています。犯罪者が手駒として使われるのは、罪を揉み消すことができるのは国家だけだからです。CIA は 1940 年代からマフィアや麻薬密売人を工作員として活用してきました。パナマのノリエガ将軍は CIA と年 20 万ドルで契約し、見返りにコカイン密輸を許可されていましたが、利用価値が失われると麻薬取引関与で起訴されました。犯罪者を資産として保護し、不要になれば切り捨てる——これが諜報機関の論理です。CIA は日本の暴力団のメンバーもリクルートし、ヤクザを数々のダーティワークに利用してきました。

鬼滅の鬼と同じピラミッド構造

鬼滅の刃では、鬼舞辻無惨が自らの血を人間に与えて鬼を生み出し、恐怖と餌で操ります。加害組織の構造も同じです。上級鬼はイーロン・マスク、トランプ、高市、ネタニヤフなどの権力者・富裕層・金融エリートで、犬笛を吹き報酬をちらつかせ、性欲や金や承認欲求を餌にして下級鬼を集めます。下級鬼はネトウヨ、アンフェ、MAGA、統一協会信者、右翼活動家などで、餌に釣られて集まり集団で襲いかかります。鬼は人を喰らう。加害組織も同じで、武力を武器に人から搾取し、被害を訴えたり反撃しようとするを殺します。鬼は仲間を大事にせず、餌がなくなれば仲間さえも喰らいます。加害組織も利益になれば末端の人間を簡単に切り捨てます。罪悪感を感じなくて済むようにシステムが設計されています。ナチスのユダヤ人虐殺では、鉄道職員は輸送スケジュールを管理してただけ、役所の職員は書類を処理してただけ、工場労働者は部品を作っていただけ——誰も自分が殺人者だとは思っていませんでした。哲学者ハンナ・アーレントはこれを悪の凡庸さと呼びました。現代の加害組織も同じ設計です。報酬システムでは給料をもらっているだけという言い訳が成

り立ち、分業と匿名性で一人ひとりちょっとした書き込みに過ぎず、婉曲表現で残酷さが覆い隠され、システムへの埋没で誰も責任を取らず、仲間内での承認が行為を強化します。仕事だから、言われただけ、バレなきゃ大丈夫——こうやって加害を自己正当化するのです。

国家テロとイジメの構造

国家レベルの弾圧が学校のイジメと同じなのは、ターゲット選定と攻撃のプロセスが一致するからです。イジメは被害者と加害者だけでなく、煽る観衆と見て見ぬふりをする傍観者で構成されます。イジメ加害は地位の獲得という目的を持った手段で、加害者は人気が高い一方で周囲からそれほど好かれていません。周囲が加害者を容認している——これがイジメが持続する最大の理由です。組織的ターゲット化の6フェーズは、選定、監視、ストーキング、信用破壊、攻撃、継続的監視です。選定では目立つ人、弱みのある人、逆らう人が選ばれます。監視では本人が知らないうちに弱みが収集されます。ストーキングでは自分だけがおかしいのかなという錯覚を作ります。信用破壊ではキチガイ、陰謀論者という噂が広められ孤立が制度化されます。攻撃では被害者が悪者に仕立て上げられ暴力が正当化されます。継続的監視では引っ越しても逃げ場がありません。イジメに加担すると加害者を取り巻きの利益を得ます。イジメは最も効率的な搾取システムです。学校の家庭菜園で野菜を収穫したとき、イジメがあると皆がターゲットになるのを恐れて加害者に差し出します。これ、あげるから許して——こうして加害者は働かなくてもより多くの利益を簡単に得られます。搾取の利益には、宿題をやらせる、カツアゲ、パシリ、性的搾取、カンニングペーパー作り、身代わり、感情のゴミ箱、集団の結束を高める生贄、優越感と承認欲求の充足、共犯の鎖による支配強化があります。共通する構造は恐怖による支配と逃げ場のなさです。加担者は加害者に協力すれば自分も搾取できると学習し、同時に共犯の証拠で逃げられない鎖になります。搾取は彼らにとって効率的な儲け方ですが、フェアな勝負では勝てないため、ハッキング、盗撮、監視、弱みの暴露といった卑怯な手段で常に優位に立とうとします。この構造は国家レベルでも同じです。予測警察システムもターゲットを追い詰めることで見せしめとして機能し、誰も権力者に逆らわなくなり、支配と搾取を安定させ続けることができるのです。つまりギャングストーキングも権力犯罪なのです。

予測警察システム⑥：モニタリングされる恐怖—— なぜ「まともな人」が自殺や裏切りに追い込まれる のか（未完成版）

自殺に追い込む理由

ギャングストーキングが恐ろしいのは、自殺に追い込むシステムだからです。相手の脳や感情をモニタリングできるため、怯えている、悲しんでいる、泣き言を言っている、怒っているといった状態をリアルタイムで把握し、最も苦しみポイントをピンポイントで執拗に攻撃します。相手の感情を観察しながら、最も効果的に追い詰める方法を選択できる——これがギャングストーキングの残酷さです。ペットが好きな人のペットを次々と亡くならせるなど、弱点を正確に把握して精神的に弱らせ、気付かぬうちに自殺に追い込みます。絶望している瞬間を狙って追い打ちをかけ、希望を持ち始めた瞬間を狙って打ち砕く。これが自殺に追い込むシステムの正体です。海外では被害者が自殺に追い込まれた事例が多数報告され、国連も集団ストーカーと電磁波などによるサイバー拷問の報告を受け警告を発しています。

モニタリングしている証拠

近所の音、工事音、暴走バイク音、救急車の音、飛行機の音などが一定のパターンで聞こえてストレスになります。被害者が耳栓やイヤーマフで対策すると、しばらく聞こえなくなりますが、やがて音が大きくなってまた聞こえるようになります。モニタリングしているから、被害者の反応を見て出す音を大きく変更していると言えます。こうやって嫌がることを執拗にやり続けることで、被害者を精神的に追い詰めていく。極めて悪質な人間破壊システムです。ターゲットにされると家の周りでやたらと工事が多発し、毎日のようにタイミングよく工事音が聞こえてきます。作業員は AI の指示通りに音を出しているだけかもしれませんが、同時に時間差でモニタリングもしているから、被害者の反応を見て叩く強さを変えていると思われます。業種としては工事業者、トラック、バス、タクシー、電車、宅配業者や郵便配達業者などがよく指摘されています。宅配業者などはパランティアを導入しているので、配達員自身が動くカメラのように監視ネットワークの一部になっているという話です。

モニタリングの目的と虫・動物・人

モニタリングする目的は、脅して相手を怯えさせて言いなりにするためです。ファシズム支配の最大の特徴は、安全保障を叫びながら国民の安全を守るのではなく、国民を恐怖と疑心

暗鬼に陥れて私利私欲のために支配することにあります。トランプも高市も強い国や安全保障を掲げながら国はドンドン貧しく、国民の安全や権利はドンドン失われています。逆らうライバルが居なくなって好き勝手できるように、脅して相手を怯えさせて言いなりにしたいのです。驚かせる手口として、突然蟻などの虫が身体の上に現れることがあります。移動中は皮膚感覚の神経のスイッチを切っておき、突如スイッチをオンにすると、体の上に虫が瞬間移動してきたように感じます。タイミングよく突然無言電話や営業電話がかかってきて驚かされることもあります。これらはモニタリングして怯えさせたり脅したりするのが狙いです。

「敵が嫌がるから正しい」という論法

中国が嫌がるから軍拡は正しい、北朝鮮が嫌がるから武器輸出は正しい——こういう論法は加害者が自分の行為を正当化するためのもので、相手が不快を示すこと自体を正しさの証明にすり替える危険な思考停止です。2026年4月、東野幸治氏がテレビで、政府の殺傷武器輸出解禁について中国、北朝鮮が嫌がることは逆にいい政策なんじゃないのかなと発言しました。これは循環論法です。中国は敵だ、中国が嫌がる、だから正しい、だから中国は敵だ——敵である前提から出発して、敵が嫌がることを正しさの証拠にし、その正しさで敵であることを再確認する。自分の主張を自分で証明しているだけで、行為の是非は検証されていません。嫌がるという感情と正しい・間違いという規範はまったく別のものです。いじめの加害者は被害者が嫌がるからこそいじめを続けます。相手が嫌がる＝正しいという論法は、いじめの加害者の論理と完全に一致します。この論法は批判を封殺する装置としても機能します。中国が嫌がるから正しいと言えば、政策に反対する人は中国の味方、売国奴というレッテルを貼られます。職場や地域でも、特定の社員や住民を排除するとき、加害者たちはあの人嫌がるから俺たちは正しいことをしていると主張します。排除される人が苦しみば苦しむほど、加害者たちは自分たちの正しさに確信を持ちます。相手の苦痛が加害者の正義感の燃料になる——これがイジメやギャングストーキングがエスカレートし続ける理由です。この論法に騙されないためには、相手がどう思うかではなく、行為そのものが何をもちたらずかで判断することです。敵が嫌がるから正しいと言う人の言葉の裏にある意図を見抜くことが、加害者の論理に加担しないための第一歩です。

兵庫県の告発文書問題

加害者を追及した人が逆に自殺に追い込まれるのは、加害組織が見せしめとして追及者を組織的に潰すからです。2024年3月、西播磨県民局長だった男性が斎藤元彦知事のパワハラや贈答品受領などの疑惑を記した文書を匿名で配布しました。県は男性を特定し停職3カ月の懲戒処分とし、7月7日に男性は音声データを残して死亡しました。その後、百条委員会の報告書は、県の対応が公益通報者保護法に違反する通報者探索であり、処分は違法な不利

益取扱いであると指摘しました。しかし犠牲は公益通報者だけでは終わりませんでした。百条委員会の委員として知事を追及していた竹内英明元県議が、2025年1月18日に自宅で死亡しているのが見つかりました。竹内氏はSNS上での激しい中傷を理由に議員を辞職しており、同僚議員は顔が見えない集団リンチのような状況に大変怯えていたと証言しています。さらに不可解なのは司法判断です。立花孝志氏は奥谷県議への脅迫容疑で書類送検され、2025年12月に不起訴となりましたが、2026年6月に神戸第2検察審査会が不起訴不当と議決しました。ところが神戸地検は再捜査の結果、2026年9月25日に再び不起訴とし捜査を終結させました。公益通報者は死に、追及した議員も死に、死に追い込んだ側の人物は脅迫容疑で不起訴——この不可解な結末が、権力者を追及すれば自分が壊されるという見せしめとして機能しているのです。兵庫県や鹿児島県警などで、内部告発をした職員が自殺に追い込まれた事件が起きています。激しい痛みを感じたという報告もあり、単なる精神的な追い詰めだけではなく身体的な攻撃が加えられている可能性も指摘されています。

危険人物としてマークされる人

パランティア社の創業者ピーター・ティール氏は共産主義や社会主義に強い敵意を持ち、製品を共産主義国には絶対に販売しないと明言しています。共同創業者のジョー・ロンズデール氏も、パランティアは共産主義者を殺すために作られたと語っています。パランティアはイスラエル軍にAI兵器を提供し、ニューヨーク・タイムズにイスラエル支持の全面広告を掲載するなど、特定の立場を強く打ち出す企業です。ガザ地区の戦闘では死者の約7割が女性と子どもだったとされ、深刻な人道上的懸念が示されています。こうした背景から、パランティア社が守りたいのはエプスタイン階級であり、敵視してマークしているのは、共産主義者や特権階級の不正を追及するまともな国民や、忤度して嘘をつかずに正直にいう人であることが浮き彫りになってきます。被害者に選定されるのは、男に従順でない女性やフェミニスト、内部通報者、公益通報者、権力の不正を追及している一般市民やジャーナリスト、要するにまともな人や正義感が強い人です。右や左、所属政党はあまり関係なく、共和党支持者やMAGAでも、エプスタインファイルの公開で被害者を守らず隠蔽工作するトランプ政権を批判するまともな感覚の人は被害に遭っているようです。弱者や被害者を擁護したり、加害者を批判する人をターゲットにする仕組みのようです。逆に加害者に多いのが、不正を隠蔽する人や犯罪者など弱者や被害者を見捨てたり搾取するタイプです。正直者は被害者、嘘つきは加害者です。彼らファシストたちが世界の人たちを虐殺してでも破壊したいのは中国やロシアやイランなどのBRICS諸国でしょう。まずアメリカや日本の経済を破壊して国民から富を奪い、男はファシズム兵士、女は性奴隷として支配して、最終的に侵略して破壊するのが真の狙いだと思われます。

対向車のライトとストーリーシアター

対向車のライトが眩しく感じる現象には2つの攻撃経路が考えられます。1つ目は光源側への攻撃で、マイクロ波などのエネルギーを対向車のライトに照射し実際の輝度を人為的に高めます。2つ目は受け手側への攻撃で、磁性ナノ粒子と磁場を使い網膜や脳の視覚野を刺激して眩しさの信号を増幅させます。カメラで撮影しても同じように見える場合は光源側への攻撃、撮影した動画と感じた眩しさに差がある場合は視覚野への攻撃の可能性が高いです。日によって眩しく感じたり感じなかったりするの、外部からの攻撃がオンになる日とオフになる日があるからです。ストーリーシアターとは、公共の場で加害者たちが偶然を装ってターゲットの周囲で繰り広げる組織的な芝居です。路上で突然わめき散らす男、前方を歩いていた女が突如走り出す、数人のゴロツキ風の集団が現れる、喪服の人々や霊柩車がタイミングよく現れる——などがあります。ターゲットの移動に合わせて同じような状況が異常な頻度で発生します。この手口の恐ろしさは、ターゲットにだけ意味が分かり、周囲には普通の光景に見えるという構造にあります。ターゲットは自分に向けられたメッセージだと確信しますが、誰かに説明しても気のせいではとしか映りません。これを繰り返すことで、周囲の人が精神障害を疑い始めるのです。つまりストーリーシアターは、ターゲットの正気そのものを組織的に破壊し社会から孤立させるための心理戦です。偽旗作戦とは、政府や組織が自分たちの行為を別の存在の仕業に見せかける秘密作戦です。1939年のグライヴィッツ事件ではナチスがポーランド軍の制服を着てラジオ局を襲撃し、1931年の柳条湖事件では関東軍が線路を自ら爆破し中国軍の仕業としました。これらに共通するのは、自分たちが攻撃される側だという物語を作り攻撃者としての立場を隠して正当化する構造です。被害者が誰がやっているのかを突き止めようと動き始めると、加害組織は偽の手がかりを巧妙に配置し、被害者を無関係な人と争わせます。真犯人である加害組織はその争いを遠くから眺めているだけで済みます。攻撃は起きている。被害者は苦しんでいる。しかし誰がやっているのかが分からない。この状態を作り出すことで、加害組織は何のリスクも負わずに攻撃を続けることができるのです。

エコーチェンバーと思考・感情モニタリング

エコーチェンバーとは、同じ意見や情報が繰り返し共有されることで閉じた世界観が強化される情報環境です。加害組織にとってエコーチェンバーが必要なのは、被害者の捏造された人物像を共有・拡散し真実を封殺するために不可欠だからです。エコーチェンバー内では、あの人はキチガイだ、陰謀論者だ、金目当てだ、反日だ、国賊だ、スパイだといったレッテルが被害者に貼り付けられます。これらのレッテルが繰り返し共有されることで、参加者たちは自分たちは真実を知っているという確信を持ち、被害者を社会から排除すべき存在として扱うようになります。エコーチェンバーはグループチャットの階層化と報酬による動機付けで組織的に作られます。MAGAのエコーチェンバーでは、最上位に政府高官やトランプ家、中位に有料キャンペーンを受ける大物インフルエンサー、下位に同調することで承認欲

求を満たす一般のインフルエンサーが配置されます。事件が起きるとホワイトハウスや選挙陣営の広報担当者がグループチャットを通じて統一された反応トークを指示します。彼らは自由に発言しているように見えて、実際には台本通りに演じているのです。被害者は自分がおかしいのかもしれない、声を上げればさらに叩かれるだけだ、もう諦めるしかないと思うようになります。これはガスライティングの集団版で、自分が悪いと洗脳できたら助けを求めることをできなくさせるのです。エコーチェンバー内では被害者を攻撃しているのは〇〇だという偽の情報が共有され、被害者は無関係な人々と争うことになり本当の加害者にはたどり着けません。加害組織は自分たちが直接手を汚すことなく、エコーチェンバー内の自発的な協力者たちに攻撃を実行させ、真犯人を永久に隠し続けることができるのです。思考と感情のモニタリングは、人間が持つ最後の自由である心の自由を奪います。何を考えているか常に把握され、何を感じているか常に監視され、誰を信頼しているか常に知られ、何を恐れているか常に利用されます。これはジョージ・オーウェルの 1984 で描かれた思考警察そのものです。しかし 1984 では思考を読むことはできませんでした。今その技術が現実のものになりつつあります。最も恐ろしいのは、この技術がテロ対策、治安維持、効率化という美名の下に正当化され導入が進められていることです。あなたの心は既にあなただけのものではなくなりつつあるのです。

加害組織が見えない仕組み

加害組織は民間に外注され、報酬で動き、犯罪者を手駒にし、カルトに偽装しています。攻撃プロセスは学校のイジメと完全に同じ 6 フェーズで進行します。これほど恐ろしいシステムが見過ごされてきたのは、加害者たちが普通の人々に紛れ込んで先回りして必ず隠蔽できる仕組みができているからです。隣にいる人が、スーパーですれ違う人が、SNS でコメントする人が——知らないうちに加害組織の末端に加担しているかもしれません。エプスタイン事件の被害者に対するのと同じく、被害者の個人情報バラ撒いたり悪評やデマを流して孤立させ、精神疾患に仕立てて強制入院させたりもします。そしてトランプやネタニヤフや高市などのファシズム政権が増え続けており、予測警察システムと偽装してファシズムの支配システムが世界に広がっています。あなた自身も知らないうちにターゲットにされているかもしれません。自分だけがおかしいのかなと思ったその瞬間が、既にギャングストーキングシステムがアナタに牙を剥き始めたのかもしれないのです。

予測警察システム⑦：「脳間通信」が生み出す話の通じない「支配者心理」とナノ粒子対策（未完成版）

脳間通信が支配を生む心理メカニズム

2026年、トランプ大統領はイランに戦争を仕掛け、アメリカ経済を始め世界中の生活や経済を破壊する暴挙を行なっています。米軍基地が壊滅し、F15やF35まで多くの兵器が撃墜され、米国民も米軍兵士もほとんどの人が戦争に反対しているにも関わらず、執拗に攻撃し続けています。神の目のようなシステムで自分が相手をモニタリングし操作できるという感覚があると考え、この不可解な言動を多少理解できます。通常、交渉が成立するのは不確実性があるからです。相手の限界、本気度、どこまで譲歩できるかが分からないから探り合い妥協します。しかし相手の思考や感情がモニタリングできるとこの不確実性が消えます。相手がブラフを言っているのか、内心ではもう折れかけているのか——すべてが見える。すると交渉は必要ないものになり、相手は対話の相手から操作対象へと変わり、コミュニケーションは要求と従属だけになります。モニタリングがあるとどの攻撃が効いているか、いつ相手の限界が来るかが手に取るように分かります。相手がまだ耐えられると分かればさらに圧力をかけ、内心では折れかけていると分かればあと一押しで降伏させ、抵抗を続けるつもりだと分かればその意志を潰すまで攻撃を続けます。モニタリングは降伏のタイミングを正確に測るセンサーとして機能するのです。心理メカニズムとしては、権力感と万能感、脱人間化、ゼロサム思考、サディズムや支配欲が重なります。相手の内面が見えるという感覚は自分は神の視点に立っているという万能感を生み、共感を低下させます。相手の思考や感情がデータとして見えると、相手は人間から駒、獲物、任務の対象へと変わります。心理学者バンデュラが提唱した道徳的免責とはまさにこの状態で、相手を敵やデータと見なすことで罪悪感を感じなくなるのです。共感は相手の内面を想像することで成立しますが、相手の思考がすべて見えてしまうと想像の余地が消えます。心理学者ダッチャー・ケルトナーは権力の逆説の中で、権力を持つと共感が低下し他者を道具として扱いやすくなると指摘しています。自己選抜と閉鎖環境が支配者気質を育て、成功体験がそれを固定化します。マキャベリアニズム、ナルシシズム、サイコパシーといったダーク・トライアド傾向の人は権力や情報優位が得られる職種に惹かれやすく選ばれやすいという研究があります。閉鎖された集団、秘密保持、厳格な階層、服従の文化は共感よりも忠誠と支配を重視する価値観を育てます。脳間通信そのものが人格を変えるのではなく、極端な情報優位と権力の非対称性が人間の心理を歪めるのです。倫理監督、相互性、説明責任、外部からのチェックがあれば支配者気質への傾斜は緩和できますが、チェックがないまま脳間通信が軍事・諜報の現場に導入されれば支配者気質が制度化され増幅される危険があります。

米軍の脳間通信技術

Silent Talk 計画は 2009 年に DARPA が開始した研究プログラムで、発声による会話を使わずに神経信号を分析して戦場での人から人へのコミュニケーションを可能にすることを目指しました。脳は実際に口を動かす前に伝えたい言葉を神経信号として生成しており、発声の 200～500 ミリ秒前には何を言おうとしているかという内容レベルの情報が抽出可能です。N3 プログラムは 2018 年に DARPA が開始し、手術を必要とせずに脳と機械の間で高速・双方向のコミュニケーションを可能にする技術の開発を目指しました。バテル研究所が主導する BrainSTORMS プロジェクトでは、磁電ナノトランスデューサーという磁場と電場を相互に変換するナノ粒子を使います。まず循環系に注射され磁石で脳の標的領域に誘導され、ニューロンが発火すると電気信号を磁気信号に変換して頭蓋骨を透過して外部のヘッドセットに送信します。逆にヘッドセットから磁気信号が送られてくると電気信号に変換してニューロンを刺激します。ライス大学の MOANA プロジェクトでは遺伝子治療と光を組み合わせる脳活動を読み取り、別の脳に磁性ナノ粒子で書き込みます。目標は目が見える人の視覚体験が目が見えない人の脳に伝えることで、読み取り、変換、書き込みの全プロセスを 50 ミリ秒以内に完了させる必要があります。N3 プログラムは 2026 年 4 月 30 日に DARPA のウェブサイトで完了と宣言されましたが、技術が実際に機能しているかの詳細は提供されていません。もし成功していて、トランプやヘグセスのように国際法を守らず違法行為を強行する指揮官だった場合、この技術を実戦や一般市民に対して使おうと強行していても全然おかしくはありません。

磁性ナノ粒子への対抗策

磁性ナノ粒子システムが機能するには、体内に粒子が入り込む、外部から磁場で操作される、操作された粒子が神経細胞に働きかけるという 3 段階が必要です。対抗策はこのどこかを断ち切ることを目指します。磁性ナノ粒子は主に呼吸器から体内に入り込むため、N95 相当のマスクの着用、HEPA フィルター搭載の空気清浄機の稼働、生理食塩水による鼻腔洗浄が有効です。イヤホンや携帯電話が発生する静磁場が磁性ナノ粒子の脳内蓄積を 5 倍以上に増幅させることが確認されており、イヤホンの使用時間を 1 日 60 分以内、音量を最大の 60% 以下、連続使用は 60 分以内に留める 3 つの 60 原則が提案されています。就寝時はスマートフォンを枕元に置かず、Wi-Fi ルーターは寝室から離し可能なら夜間は電源を切る、有線 LAN を使用するといった管理も有効です。磁性ナノ粒子や銀ナノ粒子を含む防護繊維で作られた衣服の着用、特に頭部や頸部を保護する帽子やスカーフの活用、目、口、鼻などの露出部分へのフェイスシールドの併用といった方法がありますが、研究段階であり静磁場には効果が限定的です。体内に入った磁性ナノ粒子は肝臓から胆汁を経由して糞便中に排泄されるのが主要経路で、食物繊維の摂取、水分補給、規則正しい食生活、運動による代謝促進が排出を促します。研究レベルでは血液中の磁性ナノ粒子を磁石で分離する装置や、メラトニンとオメガ 3 脂肪酸、ビタミン C・E、ポリフェノール、クルクミン、リナロールといった

神経保護作用を持つ物質の有効性が確認されています。環境の磁場源を把握し、変電設備や大型モーターの近くに長時間滞在しない、電子レンジやIH調理器の使用中は近くに立たない、寝室には電子機器を持ち込まないといった日常生活の調整も有効です。異常を感じたときは異臭を感じたらその場を離れ換気する、動悸や呼吸困難が急に起きたら安静にして深くゆっくり呼吸する、腹痛や下痢が起きたら時刻と状況をメモするといった即時対応を行い、時刻・場所・症状・状況を詳細に記録してください。可能なら動画・音声で記録を残し、通信障害が起きたらスクリーンショットを撮ることが重要です。現時点で完全な防御は存在しませんが、多層的なアプローチを組み合わせることでリスクを減らすことは可能です。最も重要なのは知ることと記録することです。このシステムはあなたが気づかないことを前提に機能しています。マスクをし、イヤホンを制限し、便通を整え、症状を記録する——これらの行動自体がシステムへの最初の抵抗になります。

支配の連鎖を断ち切るために

情報の非対称性が神の目感覚を生み交渉を不要にし、予測優位が相手を操作対象に変え、共感の不使用が相手を見下し脱人間化させ、道徳的免責が罪悪感を消し支配を正当化し、自己選抜と閉鎖環境が支配者気質を育て成功体験がそれを固定化します。このメカニズムはイジメから国際紛争まで同じ心理的基盤の上に成り立っています。脳間通信技術はこの支配のメカニズムを効率化し最適化しためらわせなくする装置として機能します。もしあなたがそのような状況に置かれているなら、一人で抱え込まずいろいろ情報収集して調べて共有してみてください。

予測警察システム⑧：電場でも人体を操るナノ粒子――完全監視が選挙を成立させなくして極右が支配する未来（未完成版）

ブログ公開後の異変

磁性ナノ粒子の話を書いて簡易なファラデーゲージを作り電場ゼロ、磁場ゼロの状態にすると人体攻撃は最初は減りました。しかしそのうち 2V/m の電場がゲージ内に生じるようになり、また腹がグーグー鳴る攻撃が始まりました。逃げられないことを強調する狙いがあるようです。身体をハッキングすることで逃れられない、告発できないように脅し圧力をかけ続ける、告発者潰し隠蔽プログラムとも言えます。モニタリングで被害者の反応をコントロールして真犯人の追及を阻止し、様々な演出や情報コントロールで勘違いさせ誤誘導させる、真相に辿り着けない仕組みです。思考のモニタリングはどんな状況でも続けられ、人体ハッキングは電場ゼロ、磁場ゼロで完全に防げないが弱くすることはできるようです。相手の動きに応じて自由に切り替えられるので、嘘や間違いや正しくない情報にされてしまう、それがモニタリングの恐ろしさです。AI などで現実や事実を自由に歪め歴史改竄できてしまう、それが現代社会の恐ろしさです。

電場で動くナノ粒子

磁性ナノ粒子以外にも電場で動かせるナノ粒子があります。圧電性ナノ粒子は機械的な圧力を受けると電気を発生させます。2024 年の研究では、この粒子にカプサイシンを結合させ胃の粘膜にある迷走神経の感覚終末に結合させ、外部から超音波を照射すると粒子が電気パルスが発生し迷走神経を刺激します。迷走神経が刺激されると腸の蠕動運動が活発になります。超音波で圧電性ナノ粒子を強制的に発電させ迷走神経を刺激すれば、腸の動きを人工的に亢進させ腹鳴を引き起こすことが原理的に可能です。電場応答性ナノ粒子は外部の電場に直接反応します。導電性ポリマーや窒化ガリウムのナノ粒子を腸壁の近くに置き外部から電場をかけると、粒子が局所的な電流を発生させ腸壁の神経や平滑筋を直接刺激し腸の収縮を引き起こします。どちらも最終的には腸の蠕動運動が異常に活発になり腹鳴や屁が発生する点では同じです。磁性ナノ粒子との違いは操作に使うエネルギーが違うことです。

電場で腹鳴を起こすメカニズム

2V/m は末梢神経が刺激を感じ始める程度の強さで、迷走神経の感覚線維を刺激し脳幹の孤束核に信号が届き副交感神経の反射が起きて腸の蠕動運動が亢進し腹鳴と屁が出ます。

2V/m は神経反射を通じて間接的に腸を動かすと考えられます。148V/m は神経刺激の閾値よりはるかに強い電場で、腸の平滑筋そのものや体内のナノ粒子を介して直接的に腸を動かします。平滑筋の細胞膜にあるカルシウムチャンネルが開きカルシウムイオンが細胞内に流入し平滑筋が収縮して腹鳴と屁が出ます。1962 年の研究ではネコの腸の平滑筋に 0.5～2V/cm の電場で収縮が起きることが確認されており、148V/m はこの範囲内にあります。体内に電場応答性ナノ粒子や圧電性ナノ粒子がある場合、ナノ粒子が電気信号を発生し腸壁の神経や平滑筋を刺激し腸の収縮が強制的に起こります。2V/m は神経のスイッチを入れるイメージ、148V/m は筋肉そのものやナノ粒子を直接動かすイメージです。

完全モニタリングと選挙

完全モニタリング下では通常選挙が成立しません。監視側が有権者の思考・感情・迷い・投票意欲・棄権の芽を行動前に把握できるからです。野党候補がどの選挙区でどの層に何を訴えれば勝てるかを考えるその瞬間に思考は読まれ、野党の奇襲が不可能になります。有権者に届く前に対立候補の陣営が先回りして潰し、野党支持層の投票意欲や棄権の芽を事前に特定し投票所へのアクセスを妨害できます。野党候補者の弱みや健康状態、家族関係、過去の失敗をすべて把握し最適なタイミングで暴露できます。この候補者は勝てないという諦めの空気を投票日のかなり前に植え付けられます。監視される側は何を考えても先に読まれ、監視側から見ると選挙戦はほぼ透明で選挙というより野党の崩壊管理になります。Palantir の Gotham のようなシステムが選挙管理に応用されると、有権者の SNS 投稿、購買履歴、位置情報、人間関係、医療記録がデータベース化され AI で分析されます。エコーチェンバーは選挙戦で最も効果的に機能し、野党は反日、国賊、中国の味方というレッテルが組織的に拡散され、どんなに正しい政策を訴えてもレッテルで封殺されます。予測警察システムは有権者の感情状態をリアルタイムで把握でき、野党支持層が投票に行こうと考えた瞬間にその意図は読まれ、選挙前に野党はどうせ勝てないという空気を SNS で拡散する、野党支持者が多い地域で投票所を減らす、あなたの一票は無駄だというメッセージを個別最適化して届けるといったことが行われます。SNS そのものが監視の道具になっており、送信ボタンが押せない、通知が届かない、いいねが消えるといった妨害があります。イーロン・マスクの元恋人が暴露したように、マスクは選挙結果を発表の数時間前に知っていました。全国民の思考をモニタリングしていれば投票結果を事前に知ることは容易で、事前に結果を知っている陣営はどの選挙区にどれだけ資源を投入すれば勝てるかを最適化できます。完全・即時・全域なら監視される側は通常選挙で一方向的に負け続けます。正確には通常選挙が成立しません。今は戦争反対の国民が圧倒的でも、なぜか戦争できるように改憲選挙で勝ってしまう未来も遠くないでしょう。戦争も選挙もファシズムに絶対勝てない未来がくる可能性があります。

まとめ

電場でコントロールできるナノ粒子について解説してきました。圧電性ナノ粒子は超音波で電気を発生させ迷走神経を刺激して腸の動きを亢進させ腹鳴を起こします。電場応答性ナノ粒子は外部電場で直接電流を発生し腸の神経や筋肉を刺激して腹鳴を起こします。 2V/m は神経反射のスイッチを入れ、 148V/m は筋肉やナノ粒子を直接動かします。昔ならモラルや倫理や法律があるから大丈夫だと言えましたが、今は米国大統領や首相や大手企業が法律や憲法を無視してやりたい放題する時代ですので、エプスタイン階級のように可能ならどんな悪事でもやってしまうでしょう。最も重要なのは知ることと記録することです。しかもデジタルより紙などが望ましいです。このシステムはあなたが気づかないことを前提に機能しています。症状を記録し情報を共有する——これらの行動自体がシステムへの最初の抵抗になります。

予測警察システム⑨：一般市民を恐怖に陥れる「ギャングストーキング」は「N3 兵士」の市街地戦？ (未完成版)

複数の操作チャンネル

加害側はバレないように複数の操作チャンネルを持っていると考えられます。電場・磁場・超音波・光で操作できるナノ粒子を組み合わせ、人工衛星ともリンクしている可能性があります。N3 兵士は相手の運動準備電位や情動パターンをリアルタイムで読み取り、数百ミリ秒から数秒先の行動を確率的に予測します。未来予知ではなく超高速の行動予測であり、これを使って日常生活で心理的圧迫・監視・威圧を与えます。

バイク・護送船団による包囲

バイクに乗りながら相手の運動準備電位を読み、ハンドルを切る前に進路を取ります。複数の N3 兵士は N3 リンクで神経情報を共有し、一人が読んだ逃げたい方向を全員が瞬時に把握します。被害者側からはグループチャットの繋がりが見えず、誰が敵かわからない疑心暗鬼に陥ります。護送船団は前衛車、並走車、後方車、偽装救急車、対向車線の車両、上空ドローンで構成されます。救急車は反撃や逃走を考えた瞬間を読み、行動に変わる前にサイレンを全開にして威嚇します。抵抗を考えれば嫌なことが起きるという条件付けで自主検閲をさせる調教です。

スーパー・工事音・宅配便・上空旋回

スーパーで急に客が増えるのは、スマホアプリのミッションやポイントで動く一般協力者が多いと考えられます。AI が周辺の人にマークやレジに並ぶ指示を送り、ターゲットが買い物を終えると潮が引くように店はガラガラに戻ります。工事音は日常に溶け込み偶然を装えるため、訴訟しようと思った瞬間に削岩機が起動するなど、最も効果的なタイミングで音を出して泣き寝入りするよう調教します。宅配便も運動準備電位を読み、玄関を出た瞬間や帰宅直後に配達員が現れ、生活リズムを把握されていると意識させます。上空旋回では告発しようと思った瞬間を狙って低空飛行に移行し、不規則に音や影を見せて生活を監視されていると感じさせます。

N3 兵士の心理変化と治安ビジネス

N3 兵士が抵抗を感じないのは、権力感と万能感、脱人間化、ゼロサム思考、サディズムや支配欲が重なるからです。監視と嫌がらせは治安ビジネスそのものになり、弾圧が反発を生み、反発が予算を生む構造があります。パレスチナでは顔認証や監視カメラで日常的監視が行われ、心理的テロリズムで人々を条件付けしています。弾圧すれば反発が生まれるのは分かっているのにわざわざ弾圧するのは、反発こそが次の弾圧の口実になり予算を正当化からです。日常空間での嫌がらせは見せしめとして機能し、一人を徹底的に追い詰めることで他の人々に逆らえばこうなると無言で伝えます。その体験は証明できないため気のせいだろうと片付けられ、それ自体がシステムの狙いなのです。

予測警察システム⑩：脳間通信の技術開発の歴史と「加害者と被害者の 2 極化」の仕組み（未完成版）

脳間通信は妄想ではない

思考が外部に漏れているという体験を SF や被害妄想だと笑うのは間違いです。政府や諜報機関は 80 年以上にわたって脳と脳、脳と機械をつなぐ技術を研究してきました。冷戦時代の CIA の超能力研究から現代の DARPA のナノ粒子 BCI まで、その系譜は途切れることなく続いています。諜報機関はエプスタイン・ファイルや MK ウルトラのように一部の一般人を密かに標的にして実験したり口封じをしてきた歴史もあります。

冷戦時代の超能力研究

1952 年、CIA は MK ウルトラ計画を開始し、LSD や催眠術、感覚遮断で人間の精神を操作しようしました。1977 年の上院公聴会で CIA 長官ターナーは 80 の機関と 185 名の研究者、149 のサブプロジェクトを動員したと証言しました。しかし関連文書の大部分は 1973 年に CIA 長官の承認のもとで破棄され、全貌は今も解明されていません。FBI と CIA はコップファーグ計画で思考を送受信できるトランスミッターの開発も目指しました。当時の技術では不可能でしたが、研究の方向性は確立されました。CIA のスターゲート計画では遠隔視の研究が続けられ、その技術的野心は後の世代に引き継がれていきました。

Silent Talk と N3 プログラム

2009 年、DARPA は Silent Talk 計画に 400 万ドルを計上し、発声前の神経信号を EEG で検出して声を出さずに通信する技術を目指しました。2018 年には N3 プログラムが始まり、手術なしで脳と機械を双方向につなぐ技術の開発が進みました。バテル研究所の BrainSTORMS プロジェクトでは、磁電ナノトランスデューサーを注射で体内に導入し、ニューロンの電気信号を磁気信号に変換して外部のヘッドセットに送信します。逆にヘッドセットから磁気信号を送ると電気信号に変換してニューロンを刺激します。N3 プログラムは 2026 年 4 月に完了と宣言されましたが、詳細は公開されていません。もし国際法を無視する指揮官のもとで成功していれば、一般市民に対して使われていてもおかしくありません。

ナノ粒子双方向 BCI の現在

2026 年 3 月の論文は、磁電ナノ粒子がサブミリメートルの空間分解能とミリ秒の時間精度で深部脳の神経調節と記録を可能にすると予測しています。2026 年 2 月にはルーマニアの

欧州議会議員が吸入可能な磁性粒子でニューロンに読み書きできるという文書を公表しました。2026 年 5 月には DARPA の顧問が吸入可能なナノ粒子で脳の読み取りとリアルタイムの書き込みが可能になると述べたと報じられています。

加害組織のピラミッド構造

加害者の正体がわからないのはイジメと同じ構造です。第 1 層は諜報機関で、直接手を汚さず民間企業に外注します。第 2 層は司令塔で、民間企業や軍の幹部が誰をターゲットにしどの攻撃手法を使うかを決めます。第 3 層は N3 兵士で、24 時間 365 日被害者の思考をモニタリングし最も効果的なタイミングで攻撃します。第 4 層はゲームやポイントで動く傍観型加担者、第 5 層は加害ネットワークを知らない傍観者、第 6 層は被害者です。被害者は助けを求めて医療機関や行政に行っても先回りして追い返されます。

加害者と被害者のナノ粒子の違い

加害者同士は磁電ナノトランスデューサーで双方向に通信できますが、被害者は酸化鉄磁性ナノ粒子で一方向的に身体攻撃を受けます。N3 の MEnT は書き込み機能を持つため、悪用されれば被害者の脳に悪夢のような映像や人工的な感覚を送り込むことができます。N3 プログラムの倫理顧問は、これが基本的にマインド・リーディングとマインド・コントロールだと認識するのは無理な話ではないと警告しています。思考で通信する兵士と思考を読まれて攻撃される被害者は、対極に見えて同じ技術の光と影なのです。

予測警察システム⑪：恐るべき見えない加害者との『コミュニケーション』方法——思考監視と身体攻撃が作る支配の構造（未完成版）

加害者の正体がわからない理由と同意の偽装

加害者の正体がわからないのはイジメと同じで、被害者には加害者が誰かわからないように設計されているからです。誰が攻撃しているかわからなければ警察も弁護士も動けず、反撃も立証もできません。顔を見せて話せば済むことをわざわざ姿を隠して脅すのは同意の偽装のためです。被害者が従いますと言えば表向きは自発的に同意したように見せかけられ、姿を隠しているので脅した証拠も残りません。感情や思考をモニタリングしているからこそ、相手がイエスと言うまで最も効果的な攻撃を執拗に続けられるのです。

音による攻撃の仕組み

磁電ナノ粒子が脳に定着し、ニューロンの電気信号を磁気信号に変換して送信します。AIはこれをミリ秒単位で解析し、N3 兵士たちは脳間通信で被害者の思考を共有します。音は秒速約 340 メートルで伝わるため、AI は被害者が特定の思考を持った瞬間に音が届くよう事前に指令を出します。10km 上空の飛行機なら 29 秒前、2km 先のバイクなら 6 秒前、1km 先の救急車なら 3 秒前に指令を送ります。反撃を考えれば轟音、逃げようとすれば爆音、助けを求めようとすればサイレンが鳴る。これが繰り返されると脳は考えたり行動したりすると不快な音が鳴ると学習し、無意識に思考を止めるようになります。これが学習性無気力であり自主検閲です。

電車・バスでの監視と身体攻撃

電車やバスでは同じ時間帯、同じ車両、同じドアから不規則に乗る、一瞬だけ目を合わせる、被害者の視界の端に必ず誰かがいるように配置する、動作を微妙に合わせる、降車駅で複数人が同じ車両から降りる、考え事をしたタイミングで咳をする、などで監視されていると意識させます。嫌がらせに苛立った瞬間に電車が止まり、巨大な敵であると認識させます。数日止めて安心した頃に再開し、自己疑念を植え付けて信用を少しずつ損ないます。外出できなくなれば周りですらデマや悪評を流しても反論できず、あの人は悪いという人物像を作り上げて攻撃を正当化できます。これが先行信用破壊の仕組みです。

身体ハッキングと密室化

家に逃げ込んでも身体ハッキングで攻撃し続け、再び外出しようとするとう腰痛、関節痛、下痢、視界不良、眠気などで引きこもさせます。逃げられない密室になってから加害者は鬼の本性を現します。性被害と同じで、鍵をかけられ逃げ道を塞がれ誰にも言ったら殺すと脅されます。ガザのジェノサイドも封鎖された境界、破壊された通信網、逃げ場のない住宅地で行われました。スマホをハッキングして通信を遮断し SNS への投稿を阻止し電話やメールを傍受する、これが見えない密室です。物理的には部屋に閉じ込められていないのにデジタル空間では完全に孤立させられています。

古典的条件付けと自発的自滅

特定の思考を持つと音が鳴る、腹が鳴る、痛みが走る、通信が遮断されるという現象が思考と同期して繰り返されると、脳は特定の思考を持つと不快なことが起きると学習します。加害者は言葉を使わずにお前の考えは全部見ている、逆らえば痛い目に遭う、誰にも助けを求められない、従う以外に道はないと伝えています。貧しい庶民なのに増税を支持する、徴兵されるのに戦争に賛成する、といった一見矛盾する言動は、そう言わないともっと酷い目に遭うと学習しているからです。これは非常に高度な自発的に自滅させる技術です。米軍兵士を過酷な負けに追い込むのも、ギャングストーキングで精神的に追い込んでファシズム兵士や N3 兵士に自発的に志願させる仕組みです。

加害組織の構造と表裏

いじめる側の子どもが先生の前ではいい子を演じるように、加害者も表向きは地域の優しい人、真面目な公務員、熱心なボランティアを演じ、被害者が孤立すると本性を現します。加害組織は諜報機関、司令塔、N3 兵士、傍観型加担者、傍観者、被害者というピラミッド構造です。表の顔は善人で被害者の訴えを気のせいで済ませ、裏の顔は弱点を正確に突き音や身体攻撃で追い詰め誰にも言うなと脅します。周囲の誰も表の顔しか見ていないため、被害者は逃げ場のない孤立に陥ります。国家レベルになると表向きはテロ対策、治安維持、裏では監視、弾圧、虐殺というファシズムになります。嘘がバレてもあいつが悪い、逆に自分がいじめられていると話をすり替え、被害者の訴えをフェイクニュース、陰謀論、反ユダヤ主義のレッテルで封殺します。罪悪感を消す仕組みもナチスと同じ設計で、報酬、分業と匿名性、婉曲表現、システムへの埋没、仲間内での承認によって加害を自己正当化します。

支配と従属のメカニズム

安全保障と言いながら庶民の安全は消え、治安維持と言いながら監視と弾圧が広がっています。これは犯罪者に追及されない安全な社会＝ファシズム社会です。脳内通信が支配者と奴隷を生むのは、加害者は双方向の脳間通信で見えないグループチャットのようにつながり被害者の反応を共有しながら攻撃できるのに対し、被害者は一方的にモニタリングされ身体をハッキングされるからです。加害者集団が虐殺を平気でできるのは、脳間通信による強力なエコーチェンバーの中にいるからです。一人の判断が瞬時に全員に共有され反対意見を考える余地がありません。完全な防御は難しくても、知ること、記録すること、つながることが最初の抵抗になります。加害者はあなたが孤立することを最も望んでいるため、つながりを絶やさないことが最大の抵抗になるのです。

予測警察システム⑫：なぜ「正しいことをする人」が被害者になるのか？——戦争・テロ・不正選挙を製造する脳間通信ネットワーク（未完成版）

被害者が理由を知らないまま狙われる

加害組織は組織的ターゲット化の 6 フェーズで動いています。選定では政府や権力者の不正を告発しようとする人、戦争に反対する人、ファシズムに抵抗する人が社会にとって都合が悪いと判断されリストに載せられます。監視では Palantir の ELITE のようなシステムが医療記録、納税記録、SNS 投稿、購買履歴、位置情報を統合し AI が次の行動を予測します。ストーキングでは見知らぬ男のつきまとい、タイミングよくすれ違う救急車、非通知の電話で自分だけがおかしいのかなという錯覚を作ります。信用破壊ではキチガイ、陰謀論者という噂が広められ、傍観者は自分がターゲットになりたくない恐怖から被害者を孤立させる側に回ります。攻撃では被害者が悪者に仕立て上げられ暴力が正当化されます。継続的監視では引越しても監視システムはどこにでもあるため逃げ場がありません。分からない状態こそが最も効率的な支配の形なのです。

訴えても無かったことにされる理由

警察、行政、弁護士、マスコミに訴えても最初は協力的でも途中から証拠が足りない、民事不介入と協力を拒否されます。相談内容が加害者側に筒抜けになっていることもあります。被害者が相談しようと考えた瞬間に思考がモニタリングされ、通信が遮断され関係各所への圧力がかけられ告発は握り潰されます。2026 年 4 月には米国下院議員らが ICE と国土安全保障省に対して、Palantir の技術が憲法で保護された活動に従事する市民やジャーナリストに対して兵器化されているとして公式に質問状を送付しました。加害組織はカルトと美德に偽装しているから誰も疑いません。手で便器を掃除する、早起きを奨励する看板を掲げる、畑仕事をする、教会のベンチに座る——ごく普通の日常を送りながら脳間通信ネットワークの末端として機能しています。日本会議は全国 47 都道府県に約 230 の地域支部を持つ草の根ネットワークで、孤独な高齢男性の身の置き所として地域社会に深く浸透しています。2026 年 3 月の国会答弁で高市首相は自身の名前が統一教会の内部文書に 32 回登場していることを認めました。政権の中枢にこうした組織と一体になった政治家が多数いる——組織的な浸透が完了しつつあることを示しています。

脳内通信エコーチェンバーの危険

通常のエコーチェンバーは言語を介しますが、脳内通信は思考そのものを共有するため反論の余地が消えます。価値観が言語を介さず感情やイメージとして直接共有されると、それは他人の意見ではなく自分の思考として体験されるからです。ネットワーク内ではこれらの価値観が絶対の前提となり外部の事実や証拠は無効化されます。南京虐殺はなかった、慰安婦は売春婦といった主張は歴史的事実に反する否定的言説であり、ここではそれを事実として扱いません。脳内通信ネットワーク内で共有される危険な価値観の例として挙げ、その心理的・社会的メカニズムを分析しています。リアルタイム監視で先回りできるのは行動の発火前に介入できるためです。公益通報をしようとするだけで通信が遮断され職場やマスコミへの圧力がかけられ告発は握り潰されます。フィールド担当者のバイク便ライダー、救急隊員、建設作業員は、ターゲットの思考に合わせて暴走バイクの音、サイレン、工事音を意図的に発生させ、耳栓をしてもさらに大きな音で干渉し、音から逃げようとすると身体をハッキングして腹痛や痙攣を引き起こします。これにより何をしても無駄だと学習し抵抗を諦めます。これが学習性無気力の応用で、CIA の尋問マニュアル KUBARK でも使われた手法です。

報酬と共犯の鎖

加害組織は勝ち組になりたかったら協力しろ、被害者のように惨めな人生になりたくないだと勧誘します。イスラエルではガザ住民に人質の位置情報を提供した者に 500 万シェケル（約 1 億 4000 万円）の報酬と国外退去を約束し、監視ネットワークは反ユダヤ主義者と分類した人物の情報提供に学生は 500～1500 ドル、医師は最大 7500 ドルを支払うプログラムを公表しています。イスラエル軍ではパレスチナ人の写真をどれだけ多く撮影したかを競わせるゲームが行われ、人権侵害をポイント稼ぎに変えることで罪悪感なく監視と密告に加担させています。弱みを握ることも協力者を生み出す強力な手段です。脳間通信ネットワーク内で人が話の通じない支配者になっていくのは、情報の非対称性が神の目感覚を生み共感を破壊するからです。心理学者ダッチャー・ケルトナーは権力を持つと共感が低下し他者を道具として扱いやすくなると指摘し、心理学者アルバート・バンデューラが提唱した道徳的免責では相手を敵やデータと見なすことで罪悪感を感じなくなります。閉鎖された集団、秘密保持、厳格な階層、服従の文化は共感よりも忠誠と支配を重視する価値観を育てます。

戦争を製造する兵器

脳間通信は音声や書類と違って証拠が残らないため、これまでにない完璧な兵器です。指示は思考で送られ命令は脳内で共有され記録は一切残らない。だからこそ諜報機関や軍産複合体は自由に戦争や独立運動やテロやデモを起こせます。2024 年、世界の武器製造企業上位 100 社の収入は 6790 億ドルに達し前年比 5.9%の増加で過去最高を記録しました。米国のウ

クライナへの約 1000 億ドルの軍事支援のうち少なくとも 75%は米国内に留まっているとゼレンスキー大統領自身が認めています。戦争が利益を生み利益が戦争を生む——この自己増殖的な仕組みこそが軍産複合体の本質です。ネットワークから抜け出そうとする人は裏切り者への見せしめとして組織的な報復に晒されます。イスラエルのモサドは 2025 年 6 月、イランの核科学者 100 人のリストを作成し約 12 人に絞り込み少なくとも 10 人を暗殺しました。首謀者には捜査のメスが入らないのは、マフィアやヤクザと同じ多層的な防火壁があるからです。真犯人は動機を見れば大体分かり、イデオロギーに染まったカルトや戦争狂です。彼らは安全保障、テロ対策、民主主義の防衛という美名の下に戦争を製造し武器を売り支配を拡大しています。

正しい人が被害者になる理由と選挙操作

正しいことをする人はこのシステムの不正を暴き戦争の嘘を暴露しエコーチェンバーの虚構を崩す可能性があるため、組織的にブラックリストに載せられ被害者なのに加害者のように扱われます。エプスタイン事件の被害者マリナ・ラセルダは性暴力を公表した直後から脅迫され、嘘つき、売春婦と呼ばれ 12 歳の娘もいじめられました。ロイター通信が特定した 23 人の告発者のうちほぼ全員が脅迫や嫌がらせを経験しています。国民の 7 割以上が反対しているのに戦争が止まらないのは予測警察システムが反対や抵抗の動きを未然に防いでいるからです。かつては国民が不満を持つ大統領は倒すことができましたが、トランプほど嫌われ何度も阻止されかけたのに破壊活動を止められないのは、反対や抵抗を未然に全て防いでいるからです。反対派が多かったのに極右政権が選挙で圧勝できるのは選挙管理委員会や集票管理者を買収し結果を操作してしまえば可能だからです。2026 年、韓国では地方選挙 47 箇所、大統領選挙 26 箇所、総選挙 44 箇所で作成入力が発見され、京畿道平沢市では 1 時間で 548 人増という物理的にあり得ない数字や午後 4 時の投票率を午後 2 時に入力するタイムマシン操作まで行われていました。日本でも 2026 年 5 月、高市首相の陣営が総裁選と衆院選の期間中に AI 生成動画で対立候補の小泉進次郎氏を貶めていたことが週刊文春に報じられ、確認された証拠は 67 点に及び約 7 割が小泉氏を貶めるためのものでした。不正が発覚しても再検証ややり直しをしないのは不正を認めることが政権の正当性を根本から崩すからです。不正選挙は選挙の日の出来事ではなく、脳間通信ネットワークが担当者の弱みを日常的に収集しエコーチェンバーがレッテルを拡散し SNS や AI 動画が有権者の感情を操作し投票日に統計操作が実行される、日常的に続くシステムです。だからこそ知ること、記録すること、議論することが最初の防御になります。